

# 外来種キタアメリカフジツボの 個体群動態：幼生の加入との関係



岩崎藍子<sup>1</sup>, 萩野友聡<sup>2</sup>, 阪口勝行<sup>1</sup>, 佐原良祐<sup>1</sup>,  
金森由妃<sup>1</sup>, 大平昌史<sup>1</sup>, 野田隆史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院環境科学学院

<sup>2</sup>北海道大学大学院地球環境科学研究院

# 外来種 キタアメリカフジツボ (*Balanus glandula*)

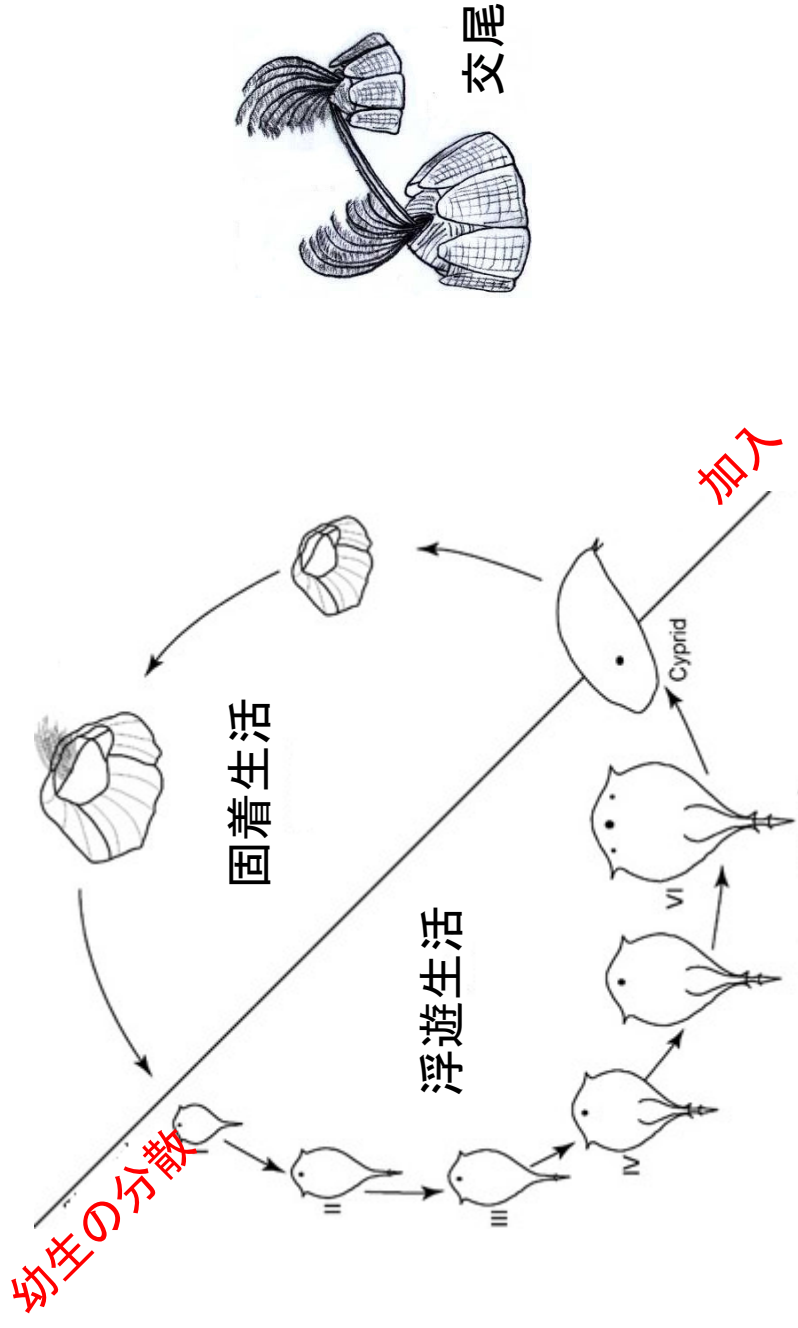
- ▶ 原産地：アメリカ西岸(アラスカ～カリフォルニア)
- ▶ 2000年に広尾以西の太平洋沿岸で確認 (Kado 2003).
- ▶ 厚岸には2006年に定着した (Alam et al. 2013).



キタイワフジツボ(在来種)との見分け方

- 殻が白色でやや大型
- 殻が脱落すると白色の石灰質の殻の痕跡が残る

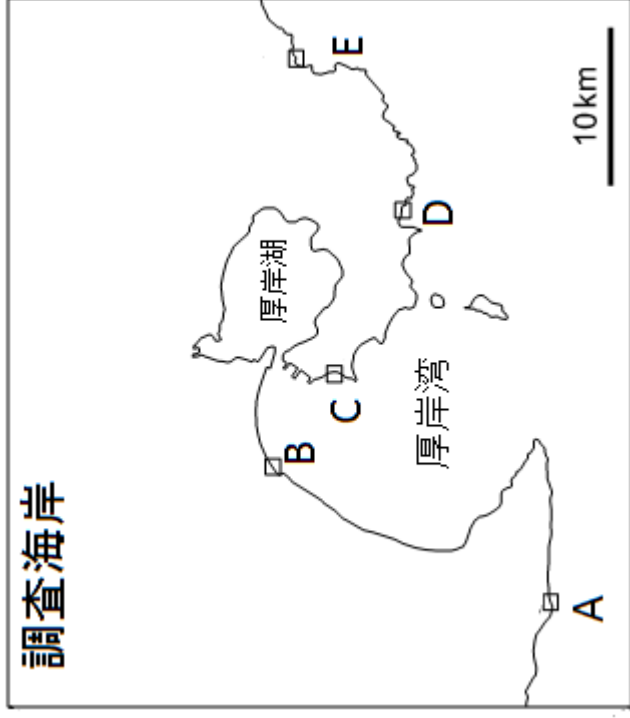
# フジツボ類の生活史



## 目的

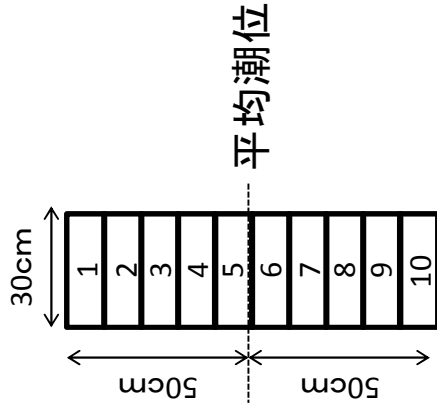
キタアメリカフジツボの幼生加入の場所と季節による違いを明らかにする。

# 調査方法

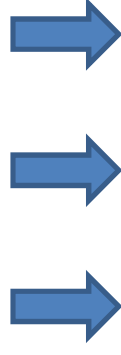


各海岸から急傾斜の岩礁を5か所選び、25個の加入量調査区を作成

## 加入量調査区

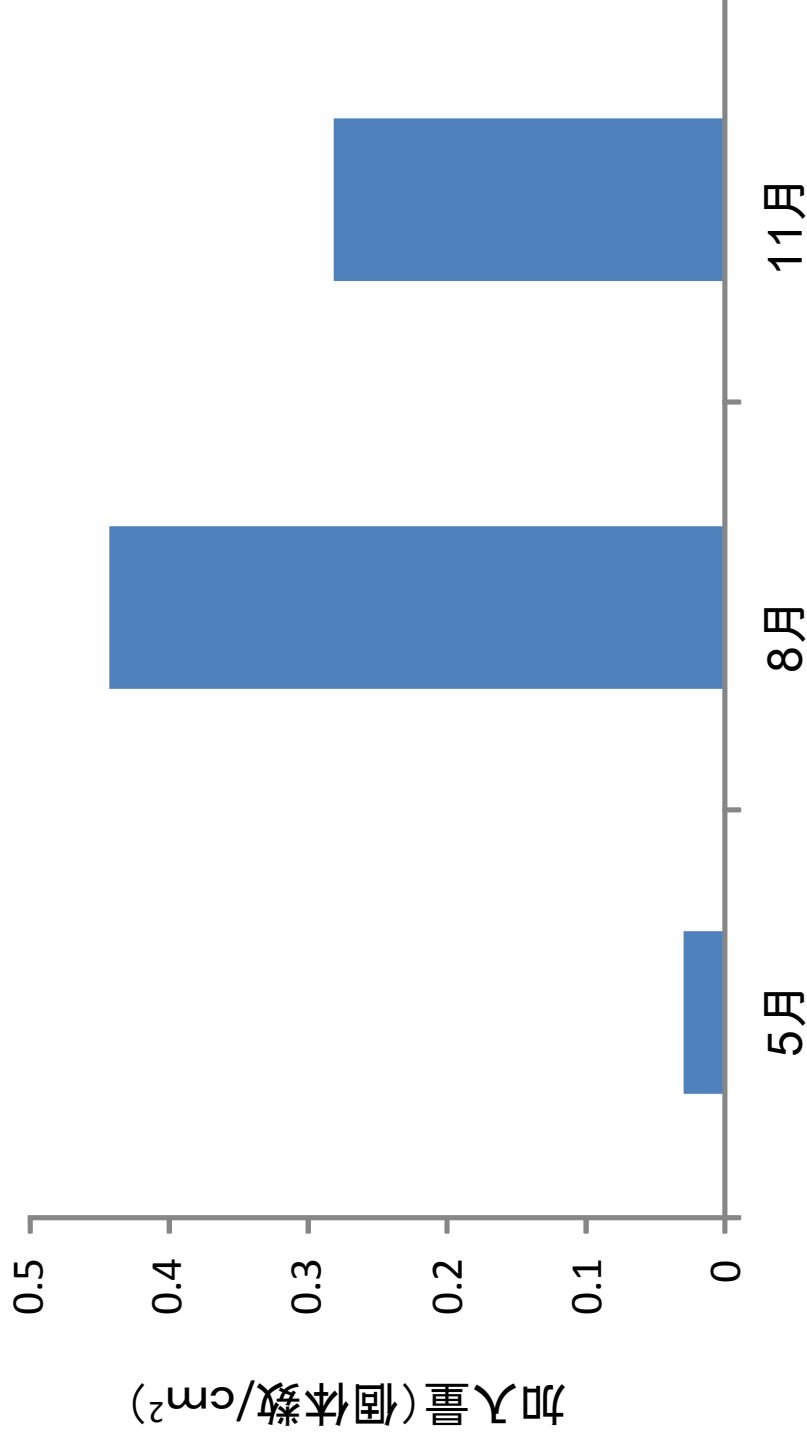


全生物の除去: 5月, 8月, 11月



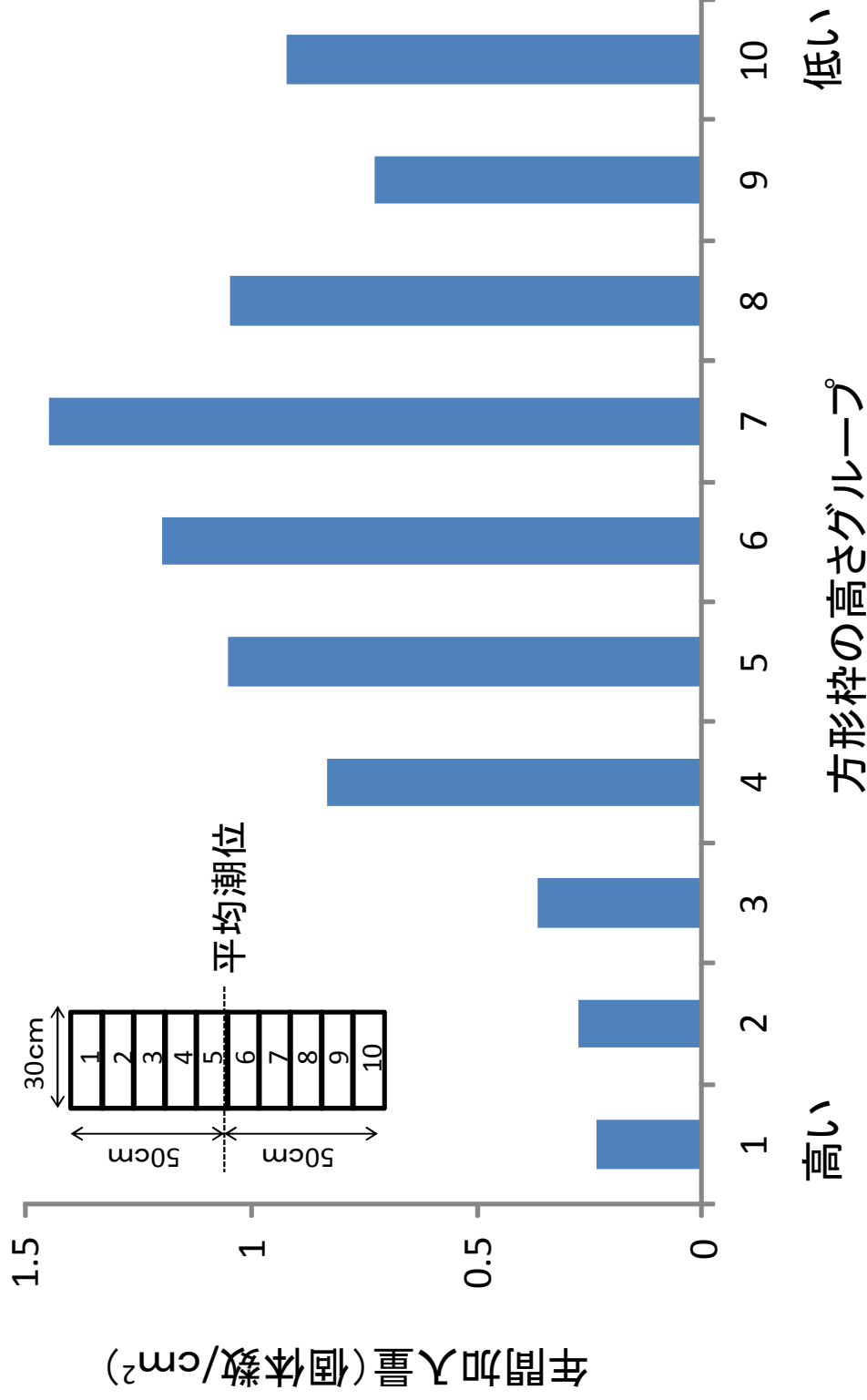
加入量の調査: 8月, 11月, 5月  
(写真撮影してフジツボを計数)

# 結果1: キタアメリカフジツボの加入時期



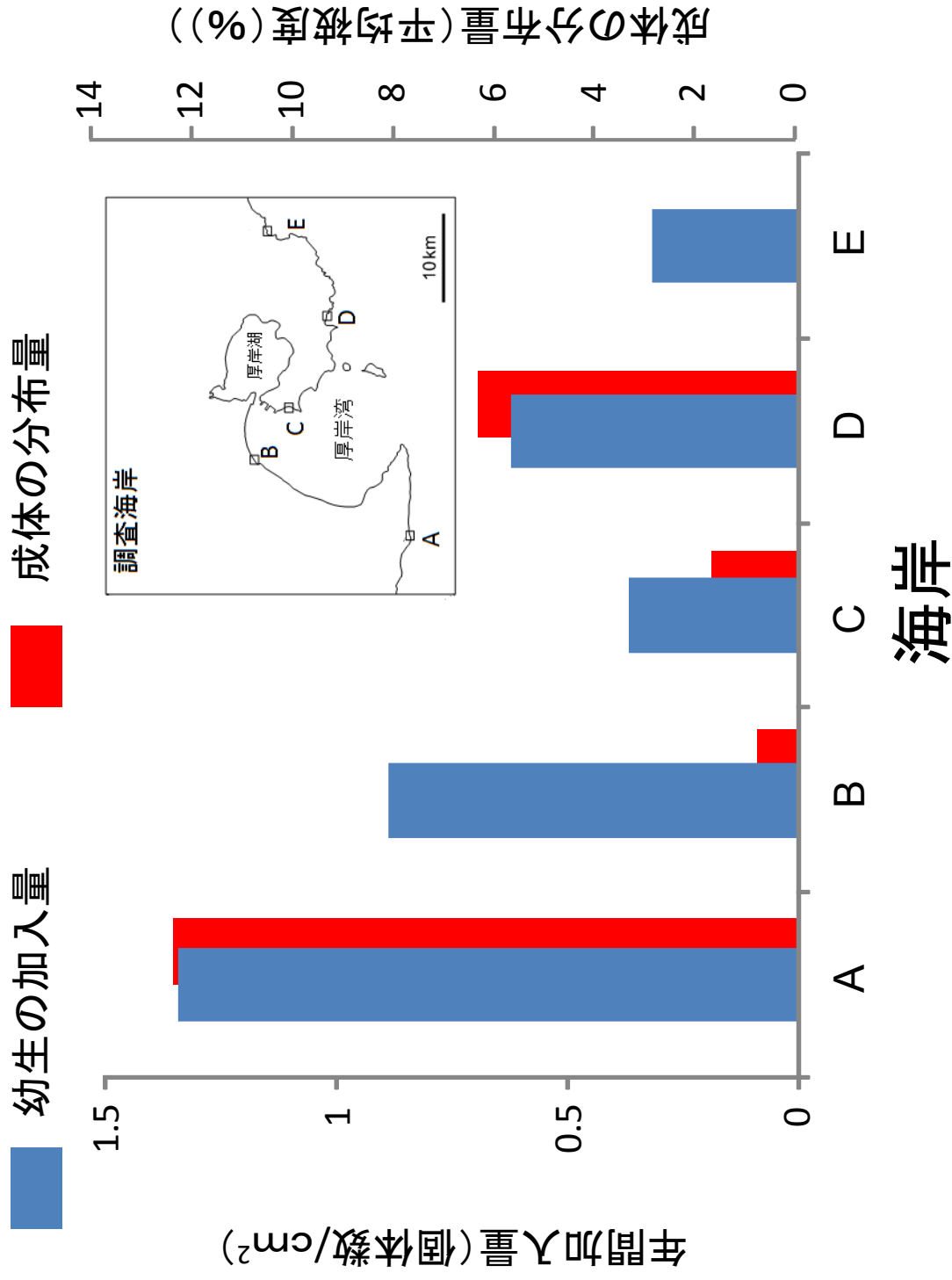
➤主に夏から秋に加入する

## 結果2: キタアメリカフジツボの加入場所: 高さ



➤ 潮間帯中～下部に多く加入する

# 結果3: キタアメリカフジツボの加入場所: 海岸



➤西部に多く加入するが、成体の分布量とは対応しない

## まとめ

- キタアメリカフジツボの幼生は夏から秋にかけて主に潮間帯中～下部に多く加入していた。
  - 原産地(北米)の生態と一致
- 幼生の供給は西部の海岸が多い。
  - 調査範囲外の西方の海岸から放出された幼生が多い？
- 成体の分布量とは対応していなかった。
  - 幼生の供給以外の要因が成体の分布量を決定？  
(たとえば、在来フジツボとの競争や捕食者(肉食性巻貝)の捕食など(2012年のアラム氏らの報告参照))